

ZEN

全道展機関紙

No. 11

全道展機関紙「ZEN」第11号 昭和58年8月25日発行
発行所 全道美術協会 事務局 〒063 札幌市西区山の手3条11丁目

後藤庸也方 T011 (631) 1602

印刷 中西印刷株式会社 011 (781) 7501

編集委員 嵐 玲子 斎藤 洪人 坂口 清一

渋谷 栄一 谷内 丞 山口 惣市



第38回全道展入選作品寸評

58.6.17/会員総会/市民ギャラリー

〈絵画〉

武田忠子「地の祈り(7)」新会友
紫系の色調に深味が増すことでテーマがビタリと決った。中央下の人物が中腰であること、人体のマチエールがやや粗地になったことが気になった。福井路可「泡沫」(B)奨励賞、マチエールが巧みに抑制され、密着的な諦感の色彩が味わい深い。ただ、装飾性の裏にある意は何か、その稀薄さが一寸残念。後藤やよい「睡魔」肢態の水々しさが魅力。筆緻も柔かくよく走り、俯瞰の構図もおもしろい。ペツドの存在感がやや弱く見えた。石黒勲「酒造工場」愛惜を込め気どらず描いた古工場の作品は、重く心底に響く。発色はにぶいがその分だけ精神的な深い祈りとなっている。泉京子「ピエロ(B)」天上人のようなピエロの聡明さと淋しさが伝わり、平明な画面は心地よい。しかし、それなりの深味がほしい。福島孝寿「子供のいる公園」詩情的な乳白色が美しい。鉄棒を削除して遠景をもっと描写しては。高橋靖子「作品・線」青の中の白い神経線が鋭いリズムで、心の琴線の磨きと奥行きが表れ、すこい抽象画になると思う。デュボア康子「アプレ・ミディ(B)」配色と色感に爽やかな卒直さがある。消し描きでやや鮮度がにぶったよう。土井善範「人々」(I)透明な緑青系の統一感が気持ちよい。人物の色面化はよいが量感に乏しくなった。難波さがとれて進歩の跡あり。本保正行「横たわる裸婦」けだるそうな手足の表情に作者の心情を感じさせ、室内の孤独感を盛り上げた。下の足の描写をもう

一步。



〈評〉岸本 裕躬
斉藤剛火「塊」毎年人体の力作ですが、今回は力みすぎたものが省かれ、牛の形が描き込んでいる人体の力の広がりとなって空間にぬけて良いと思います。千葉位子「わたしは手品師」細かく見ると気になる部分もありますが、全体のフォルムも面白く、独自のたのしさがありません。矢下瑛子「踊り」奨励賞、地味だが神経のゆき届いた爽やかな佳作。昨年あたりから急速な進歩です。堀川勉「ベルガモン回想」力ある常連、今回の広がりある構図賛成でした。知的で細やかな神経の配慮が魅力ですが全体の迫力に繋がらないのが残念に思います。新田淑恵「ガンジス川の辺で」どこも皆、よくかきすぎる為全体を逆に弱くしています。階段や人も、もう少し整理し、色彩にも主張が出たら、すばらしいと思います。杉吉篤「壊れた時間」深刻なものをユーモアに代え、面白い画面で、とばけて見えるあ

たり、他に無い新鮮な魅力。三沢邦子「青い制服」ひた向きの作家が感じられますが絵具のつきマチエールにも少し神経がほしいと思いました。石塚絹「花ある静物」一見優しい人柄のにじみ出ているような、ほのぼのとした作品ですが、ポット等の実在感とその空間に相当きびしく神経がつかわれています。氏家康代「人形のある空間」室内の空気が感じられます。でもものが多すぎ、整理されたら良くなるでしょう。林田理恵「アンモナイト」コーヒー挽きが一寸浮いた感じもありますが、感覚のよい美しい作品です。でもそのうちこれを破る冒険も、おすすすめしたい気もするのです。

〈評〉小関恵久子
川口聡「川岸のアパート」暖かいやさしさのこもった庶民の息使いを感じるが護岸と水面に変化とその工夫がほしい。中橋修「ためらい」やわらかなタッチのパスカルで丹念にうめつくされた画面は美しいが前年作ほどの感動は起らない。加藤由紀子「テレフォン」美しい色の室内構成はよく計算されているが殆どナイフによる仕上はそれを重く硬くしている。三上博子「女2」立体を強調した大胆なマツスのとらえ方に迫力を感じ、左側の手、単純化としてもデッサン不足を感じる。熊谷充恵「夜明けの鳩小舎」前年に比べ鳩舎の細分化色共にまだ未消化な荒さを感じ、時間が足りなかったように惜しい。松井多恵子「私の部屋」室内白衣手等よく描きこまれているがそれだけに省略された頭部の解釈に矛盾を感じる。全体頭部方式で統一してあるなら又別の

見方が成り立つように思うのだが。千葉幸子「シーソー」人体の動きを達者な筆さばきでとらえ力強い空間が単調、人体に比べ明る過ぎる。渡辺千香子「gate」この人も人間の躍動感がねらいのよう。むづかしい所をとり入れ少し無理を感じて画面の扱いが面白い。描きこみは前年より不十分。佐藤公一「凍土」深々とした背景の割に中心部の青と白の扱いが安易で雑な所が惜しい。清田操「箱の中の女たち」方形の画面に箱と人物、野心的なものを感じて色がまだ生で浅い。これから更に描きこまれていくものと思う。

〔評〕坂原 千恵

吉田康子「望風」新会友、金属の響き。構成に工夫があり、達者さを感じる。部分的に見ると、大胆な色彩、フォルムの変化が欲しい。横山昭子「室内静物」色彩が統一され、調和がよい。更に描きこみが欲しい。テーブル上にもっとモノがあってもよいかな。岡田義己「葬」哀しみに包まれた画面、ひつぎの模様は美しい。ズリ山、炭住のつつこみ不足。全体的に平板に流れている。坂田武夫「はげまし」青の色彩に豊かさあり。全体的に喰い足りなさを感じるのはフォルム概念性からくるものか。坂上修「作品2」ブルーに暖かみがあり、墨象の味わい。黒い部分に対する深みとポイントを設定させて欲しい。佐々間留美子「一隅B」誠実な作画態度に好感。テーブル上にフレッシュさが欲しいし、ねらいをもっと明確に。ボススターII「明暗の対比やブルーの色彩が美しい。幾何的図形との組合せも



面白い。ポイントのつつこみ不足。

小野司「祈り」フォルムに特異性があるが、様式化することにより、フォルムに観念的なものを感じるのだが……。そのせいで画面がとても美しいのに喰い足りなさを感じる。中村静枝「或る日C」女二人がダイナミックにかかれていてよい。表現意図をもっと明確に出して欲しい。土屋いずみ「ぼたん」水彩画としてのみずみずしさがある。筆致に大胆さと密さが欲しい。少々荒っぽい。つばにもっと重色の奥深さがほしい。

〔評〕藤井 正

菊地ひとみ「踊子」前方の立像横たわる人物と後方の人物との連がりを持たせフォルムとムーブマンを出し空間を感じさせ。無難な作。獵場亮子「風景一兆」センチメンタルな題名からして意味あり気で少し気になった。もっと面白い造形に引っこんだ制作を望みたい。高橋晶子「浜への風景」線による構成と見たが少し軽い感じ

を受ける。これだけの大きさが必要かどうか一考を要する。佐藤恵美子「母子」見おとしてしまうような地味な絵だがナイーブで温かい親子の情感がよく出ています。誰れに干渉される事なく自分を大切に制作に励げんで下さい。笠原悦子「金魚のいる家」直線曲線による構成は巧みで、色調もよい。内面的なものを強く感じられる。作画態度も真面目、好意の持てる作家です。大橋弘子「ふたり皿」しっかり描いているが固くこちこち、抜くところと明るい新風が画面に入るとよい。松本静子「radio」昨年と同様ピアノのモチーフだがこういうものはよほどしっかり描かないとマンネリになる危険性を感じるがどうだろう。福井弘三「春雪」ただの風景ではない。メルヘンの世界を思わせる作者の意図が感じられる。色調も甘くならず構図のとり方もよい。藤井高志「手品師の館」内面性の強い作品である。一見華やかそうな老手品師の後姿に哀愁を感じさせ。色調にも描写にも密度があって佳作である。田中ヨミス「仮面の倉」仮面の裏にほんとうの人間の顔がある。中心のおどけた顔にそれ程深刻さは感じない。

〔評〕前野昌市

大泉康子「人形の家」奨励賞全体の灰色調にピンクとグリーンが響き美しい、構成もたしかで仲々の佳作。石原佑一「室内風景C」白を主にしてマチエールを作り独得な力作だが、昨年の方が印象に残った。色彩に飛躍を期待。佐藤良紀「海の賊NO3」緑の暗色、砂丘、前面に賊を大きく配し細密な描写で孤独と悲哀を伝えようとしているのか、描写にも少しリズム

ムが欲しいと思うが。伊藤勝美「或る風景38-1」中央に虚像の如きを配し、シンメトリックな思い切った構成は面白いが、全般に緊迫感が少ない。米沢史子「海辺のCOMPOSITION」舟の処理にも工夫があり、シャープな佳作、ただ、情感に流され過ぎると甘くなる反面に戒が必要。桂木洋之「夜の主」個々の物象を丹念に描きあげている描写の力は確かだと思ふ。伝えたい内面性の主調がもっと出てくれれば楽しい作家だと思ふ。市川洋一「牛雲S、3-A-69」伸びやかで、好きな絵だ。横文字で調子を取っているのも面白い、牛のフォルムをもっと出してよいと思うのだが。黒田邦裕「群像、残された者達」人と人との構成そのものは、よいと思うが、全般的に迫力に欠けるのが残念、作画の視点を自分に向けたら。三浦正子「海の詩1」海辺に見られる変哲もない素材を絵にしているが、構成も強靱で意図は成功していると思う。中谷幸「静物83-12」ぬり重ねた割に、絵が伸びやかで、力量を感じる仕上げ、構成が、かたく感ずるのは四角の多用からくるのでは。

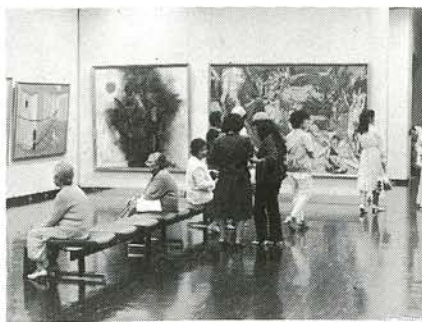
〔評〕新覚吉郎

林教司「受胎告知」精神面をシユールっぽく扱いよく描かれていると思うがもう一歩フライングされたい。山田乃里子「ボンヤリ水」人物をとりまく空間がカラフルに描写されファンタジックな世界を醸しだし、魅力ある作品。桜田栄次郎「赤い扉B」無難に描写されていくが焦点を絞らないと主張が伝わってこない。菊地章子「独楽の風景」ダイナミックに描き上げ

られた楽しい雰囲気が出てイエローも美しく力作である。高橋正敏「私風景」(全道美術協会賞)色彩の扱いに多少のたつきはあるが心象表現の構築にバイタリティーを感じる力作。新しい方向へクリエイターする気迫あり今後どう展開するか期待。紺谷博樹「ベバリー」白い世界にブルーが快調に流れ楽しいリズムを感じる。下の処理に遊びがあり過ぎるかんじ。佐藤フサ子「アトリエの友美」色彩は落着いたよいムード、人物と他の物体とのウェイトのかけ方に気配りをして欲しい。中川克子「ひまわりのある静物」発色のいいきれいな色でかかれて目をひく、上部と下部とのつながりでのコンポジションに一工夫を。土屋康子「静物B」何気ない静物を配した室内空間が快い自由をうたっていた好感もて。中村くみ子「裏返しのデッサン」非常に強烈な印象を与える面白い作品、今一つ色彩のバリエーションを考えると深味を増しよくなる。

〔評〕大地康雄

高木多美子「かざぐるま」親子の視点が風車に集中し大きなムーブマンを保って回わる。しっかりと追求された努力作。西辻恵三「とり」重厚なマチエールと、強靱な色感に支えられた作品である。コバルト系が美しい。造形のみに終わらないこと。清水昌光「ひとと一」病室での家族の心清を青や紫によって表



出している。構成・深化の上で一段の精進を期待する。

二部静也。浜。漁村の浜辺にたずむ少女は寂し気である。夕暮を想わせる色調が美しい。シルエットの柱の配置を工夫したらどうか。

峰律子。母子(A)。大きなフォルムで母子の情感を表出しようとしているが、デッサンを基本におき、絵肌にうろたえがほしい。

福井バク。婦。大胆なデフォルメにより婦の内面深く、くらくらいうとする作画態度に好感。今後の進展に期待できる。

千葉征行。静物(B)。実在する物体は美しく描かれているが、単なる構成のみに終わってしまった。作者の「心」を表出してほしい。

矢元政行。室内風景I。暗色の三人の男達と明るいテーブル上の配置は、内面の追求に進展が見られる。今後の展開が楽しみである。

高田 稔。円景。手なれた仕事である。シルバークレーが主調の色彩の中に点在する色は美しいが、

マチエルにおぼれ過ぎていいまいか。

渡辺嘉之。漁村(番屋)。古びた番屋の大きさと廃屋になった漁村の冷たさが感じとれる。地面から水平線にのびる空間に疑問が残る。

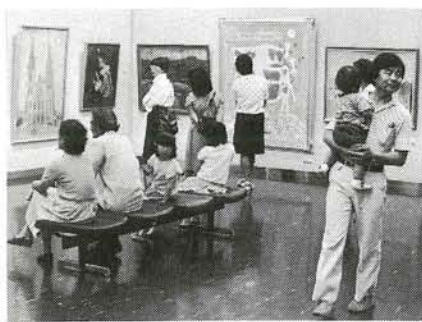
高尾桂。飯眠。それそれ。色調も、デッサン力も仲々よい。只、下に重なる人物がよくわからないのが残念。それに、左上の窓の配置も考えてみてはどうか。坂口美津雄。懐古B。よく描き込んでいる。狙いも仲々よい力作だ。しかし、にぎやかすぎる。空間が有ってもよい感じもする。横山正義。北の破舟A。北方の厳しい自然が、よく表現されている。モノトーンに近い色調も賛成。只、上下の関係、マチエールの考えてみては、加納和美、北の街「明暗の調子」が、とてもよい。多様な線も美しい。描ける人だが少々ムード「情緒」に流されてはいないか。梅津薫。ATELER, 1982, 朝。外景と室内の対比は面白いが、全体に同じ調子(力)で描いている為絵を弱くしている様に思う。篠木由美子。未熟なトマト。色調、マチエルともに描けている。焦点の人物、もつと大きく抜かてみては。佐々木治。椅子の上のストックと静物。色のハーモニーがとても素晴らしい。だが空間と物の関係はどうか。渡辺通子。眠る女。確かなデッサン力、構成もよい。澄んだ色調も美しいが、ソファの明暗の扱いはどうか。渡辺貞之。ROOM(0時)。今までの作品の中では、もつとも好きな作品です。構成・色調もよい。特にブラック系の響きが美しい。中心のイエローも効果的。

力ある人だけに今後を期待する。

道添宗敬。室内、女。大きな人物を真中に持ってきたのは大成功。又、人物の扱いも、大振りな気持ちが良い。只、広い空間と人物の関係はどうか。

鳥を促せる男。酒井俊行。群像から転換見事。白い鳥が欲しい。バックの左右に変化が欲しい。椅子の付近密度ありよい。

惜(せき)船川照枝。迫力あり、色よりも形、構成を大切に、対角線で割った右半分の明部と反対側の対比に好感がもてる。COWBOY。原田恭子。マチエールの効果をねらって、画布の見える薄塗りの部分があると、すつと抜けて、楽に見れるのではないが、「休む女」長尾宇多子。黄色がきている。黒、白、黄、赤味の大きな構成が良い。絵具のつきに自信のない部分があると効果を弱める。「窓」、仁木隆、つやつやした床に映ったものを使つてはどうか、ねらいの効果がでそう、佳作。「クラリネット」、人形など。後藤敬子。黄系統にきびしい黄色がほしい。モチーフ、構成を大整理して、大と小、太と細、明と暗等々「作品A」金沢実、赤と白の線に、前進の意図を感じる、左側の陰面様に對し右の陽の構成はどうだろう、「作品II(面)」神保房子。画面を大振りな構成で、徹底的に、変った色彩で塗り込んでほしい。絵具の扱いを大事に。高橋キク。猫のいる風景。楽しさが続く。去年のサップグリーンの魅力が消えたが、登場する物に不思議な面白さがある。「煙の見える風景」、本庄康伸、三ツの部屋の情景を一面に凝結させた密度のある絵、広い面積の壁



や床の扱いに神経を込めて、佳作である。

平岡正造。家の中A。新会友、画面構成が前より複雑になり生活の匂いが感じられる。色彩や絵肌などを整理すればもつとすっきりするのでないか。高橋永実子。電気機械A。何気ない素材であるが物の配置がよい。パートの厚い画面が少し重苦しい感じがする。宮下淳。Fへの手紙。暖色の中のおずかな寒色が効果的であり表現意図がよく表われている。品川恵子。「一九八三年六月(1)」。単純な構成ではあるが情感のあふれた佳作。これからどう発想を広げていくか。

諏訪道子。室内C。奔放な色彩の動きも美しくまとまりもよいがもう一歩密さが欲しい。森弘志。冷風展望台。一種の自画像。空やドラム缶、煙などシュレートの手法であるが色彩的には絵が単純になり易い。動きが欲しい。成田勇吉。「シルエット風な馬たち」。それぞれの馬の形態に変化があり重厚な画面であるが手前の池の部分にも

うひと工夫がほしい。棚橋永治。画像83A。外への広がりは感じられるが白いキャンパスの配置はどうか。これに対応した後ろの処理も考えては。棚橋れい子。生命(1)。パステルによる作品だが油に比べる先だに。発想も甘いし形態も手先だけになり易い。油彩も考えてはどうか。額縁のまわりにも神経を注ぐこと。板谷論使。的と牛骨。標的をもつてきたのは面白いが、黒・大きさを造形的に配置する工夫を考える必要があり、後ろの画面処理に密度がほしい。

中川秀夫。おそろしい空虚。一方からの風の動きを表現した発想は面白いが、質感にも考慮が必要。油絵具による効果を生かしたいといふところに感ずる。長谷川順子。「街のひと」人物の配置が平凡。無理に三人を詰め込んだ感じがする。線による輪郭の説明が気になる。池田緑。アリスの風景。去年の作品からどう発展するのか楽しみにしていたが期待はらずで残念。絵に雰囲気を感じられない。画面構成にも、もう一工夫して欲しい。浅川茂。櫛。新会友、しっかりと配置構成、質感の良さ、色彩の配分にも考慮のあとが見うけられる。均等な力で描き過ぎたようだが、もつとポイントを絞つてみてはどうか。横山雅之。トルソ。大胆なタッチを生かしているが、ただ勢いにまかせて描きながつたように見える。じっくり自分の絵を見つめることも大切。中島徹。待つ。人物の表情も生きている。色彩、配置にも充分な配慮のあとが見うけられる。根美津子。室内D。構図のまとめ方は成功している。

手前の花の処理は疑問。今西直人「牛と人A」安易に走り過ぎていないか。佐藤克教「Rainy Day」構成は良いが画面の一部に張りつけた金網の意図は理解に苦しむ。必要な描くべきだろう。違和感を感じるのみ。斎藤隆博「止められた時間」新会友、動きが一瞬止まったような不安定さが面白い。配色、タッチにも独特の良さはあるが、欲ばり過ぎて絵がやや散漫になってしまったのが惜しい。

〔評〕西村 徳一

池田征史「わらべ詩2」佳作賞 俯瞰した構図に「綾とり」をする五人の子供、遊びの楽しさと逆に糸に繋がれた宿命的しがらみが深刻な暗示を示す、現代への警告であらうか。床に配置した絵が、たの立体に繰り広げられた作者の曼陀羅的世界観力作です。深谷栄樹「浜風景」人と廃船、下地をしつかり作った絵、船と共に過した日々を辿るように座す人物、ブルシャンプルーの扱いが強靱で効果的です。イメージの種を豊かに持つ人、整理に大きさを望みます。加賀谷孝子「人形遊び」シメトリックな構図室内で閉ざされた孤独を狙ったのか。フロッタージュでレースを描いていますが硬くなりまし。人形の表情に愛を。村岡克己「風景(1)」廃品の巷の裏側にある風化を試みているがキャンパスの目が気になる薄描きは絵も軽くなります。描写を狙ってピンとした緊張を。嵯峨淳子「独立」フィルムを見ているような透明描法光沢が強い一羽の鳥の独り立ちなのでしょうが雰囲気は先行し立ち。真野寿子「仮面の詠唱」トーテムポールの壁はアラベスク風で変化



がある。前の人物の扱いに関連性が欲しい、仮面の顔はどうでしょう。高野康平「白い滞船」永年のテーマ船を抽象化しているが上部が視覚的に一体化を拒みます。上下貫く構想に進まれている。横塚順子「家族」追想・ボーズが動的で戯画的楽しさが独特です。バックの白は空間の効果を意図されているのでしうが迷いが感じられます。河村淳智「風景」透明なイメージ、マチエールも爽やかで美しい。無理なく展開された快さがあります。森下悟「樹」(1)筆勢の強さで風土の空気のようなものが伝わります。樹そのものの形象が見えないため造形が弱くなりました。

〔版画〕

〔評〕佐久間恭子

発註芸術という語が出たことは美術はある特定の描写技術の見せ場ではなくった。本会の部門別の考えは、時代逆行であるが、運営上やむなくすることである。「何を」の発想を「どうして作

る」かの技術が結合したとき創作がなされる。あたり前のこの作る手段に興味に移り、こだわるが多々ある。特に版画にはよくいわれる。版画手法よりも他の分野に、ときには発註させるものへと目をむけるべきものと思う。

作家の評は、とく自分好みの狭い視野に陥る。それを承知のうえであえて、指定された十一人の作品の中に入りこんで、私流に想像をたくましく飛躍させてみた。いくらか参考になれば幸い。

小池真理子「融和せざる二つの世界」銅板にクレヨンで描き、濡らした和紙を張っておいだら……。

高田京子「魚碑」、シーラカンズ、いやもつとグロなことに世にない魚を。木の瀬博美「時空を越えろ」これは色調だけにポイント

が整理され緻密にしたら、フト思った。佐伯美枝「天使の血」写真などでコラージュ、一部手描き

かエッチング。水木まどか「競馬場の風景」モータードライブカメラでやたらに撮りた。玉村和也

「温泉の春」五〇号くらいにした。宝賀寿子「黒い雪・嘆き」タイ

イヤばかりで数を増やして、越谷賢一佳作賞「北の街」うますぎて

中に入ってゆけない。佐藤まゆみ「WAVE」私がやろうとしてい

ること、リスフィルム使わないうて、モノを置いて感光させるフオート

エッチング。西窪全全「早春の知床」知床の山よりもこの人の山の

味に心がなごむ。菱和子新会友「凍土」明るい空間とのコントラスト

がいいという人、私は樹のタッチで埋めた方と思う。楽器は甘い。

〔評〕一原 有徳

瀬戸節子「遊園地Ⅲ」色も形も

大らかでよい。色版の重ねに気を配り色の濁りをなくしたい。岡本早百合「Mindoll(1)」イスの上の人の形と花、ありふれた素材から静かな美しさをにじませている。中間のトーンを豊かにしたい。相馬明「冬日」色にぶい味が味のある彫りて冬の日の情緒をだしている。木の枝の重ねに混乱があるようだ。「寺良司」夜明けの道」刷りはよい。雪に映る影が雨の日のように見える。また雪と物との接線を大切にしていきたい。和田裕子「グランド」遠目には迫力はないが異国情緒をたえていた。三神ひさ子「葉音」同じく遠目には白い顔と胸が目に入らない。部分にとられすぎでないだろうか。杉浦篤子「ピエロ」版の味の面白さの中に造形的きびしさがある。原島典子「山猫」技術的に安定した力をもった作家だが、視線をテーマに引きつけさせる力が不足している。構図に変化を望む。北川佳枝「cloudy monday」奨励賞、銅版画のよさを出した佳作。倉庫の壁とよく対決している。色の重ねからくる重厚な味わいがある。今後壁面の中に自分を更に強く投影してほしい。田口丞二「伝説・怪鳥(3)」技術的に向上している。テーマへの迫り方が説明的で絵を弱めているようだが、大野重夫「原野」前景の枯草と何もない原野の対比はよいのだが、枯草の表情が一樣で面白さをなくしている。

〔彫刻〕

〔評〕浅野 惺

須藤良明「率なくまとめた習作、テクニクには完成したものが感

じられるが、もう一歩これより抜け出して「彫刻とはこれだ」と云う強さと驚きが欲しい。渡辺高子、部分的な意識にとらわれず全体に引き閉まる物が有れば良い、髪型の観念的で安定感にやや欠ける。外山佳志子の「女」顔、腕、手首等細部は全体の流れの中に調和がある。昨年の作品にも感じられたが腰から脚部に移る組立にももう少し力があっても良い様に思う。平田輝夫の子供の愛らしい表現は好ましい技術もなかなかのもの、しかしもっと大きな造型に挑戦を試みてはと思う。池田啓子、やや部分的に堅さがあるが独特のフォルムに味がある。佐藤公毅の木彫の首、真剣に木に取り組む姿勢が伺える。首の切口は彫塑的である。徳田幸次郎、昨年の仕事より一段と意欲的な仕事を感じる。細部の特に、指、腕が出来ていない。二部黎のテラコッタ、大きな土の塊に力がある。しかし細部の腕、子供、首など、もっと自己の表現に徹する可きだ。

浜部三喜男、量感の有る木彫が子供を抱く母の、上方へ抱え上げる力に不足を感じる。大きな動きも欲しい。佐藤雄二の抽象、面の作り方、穴の切口には、もっと、整理された鋭さに欠ける。下部より棒で浮き上げた玉も意味が薄い。堀部冬彦のハートは何んともくおらかな心なごむ雰囲気がある。しかし造型の厳しさに一考を要する。田中隆行の「落陽」は大作でかなりの意欲を見せているが、背中より腰に移る流れにも足らなさがある。宇佐美篤子の「Sさん」表面のなで廻わした様な処作は著しく緊張感を失う結果になる。内



部のエネルギーを出す事に今一つ力が欲しい。

川辺由紀、昨年は木彫、今年は石に変わった。実在に取り組んだ姿勢に好感が持てる。もう一度石に挑戦してもらいたい。

高橋雅文の「Head of ADL」は全体に引きしまるものを、みなぎらせ技術的にも評価出来る、新しい仕事を期待する。西川昇、佳作賞、今回の作品群の中より傑出したものを持つ作家だ。地味ながら清楚な、やわらかい表現の中に、実に充実した実在感がある力作である。

川名義実、流動的な木彫で巧みな表現力の持ち主であると思えるが、動きのある足に対し顔と後に廻した腕、上半身とのバランスに難がある。

〈評〉山本 一也

橋本諭「Karuna」は、力強きにあふれた力作である。ただ全体的にムダがまだ見られるのは一考を。池田謙「宿」奨励賞は、昨年よりもぐっと力がついてきて、深みが塊りに出て来た。ただ、側

面の扱いは、弱く、前面から後ろへの強さが感じられない。和田雅子「カズノリ」は、小振りながら大ききを持った首であり佳作です。木下和美「初夏」は、細部にこだわらず、構成し、良いが、着色や頭部などは、もっと神経をつかっていないとだめです。今谷孝「頭部S」奨励賞は構成も緊張感のあるものになった首としては、大ききのある佳作である。凹凸が少なきつい面もあるが表情をおさえ、情感豊かに表現してあつてよい。

川田静子「早春」はふくらとした、肉付けに神経を使いながら、深い挑戦をした佳作、肉付けを部分にこだわらず進め深い情感を引き出している。本田泉「A sound mind in a sound body」北海道新聞社賞は、男のトルソをきつい面取りで、彫刻の良さを引きだし質の高い制作であった。木の良さを見つめ深い味わいがある。藤田美樹「河よりもゆるやかに」まだまだ技術的に未完で、それだけに荒々しい骨太さがある。筋肉は、ヒントにはなるがくだるものかえって足の強さがなくなるものである。竹林昌子「鯉(座)」新会友は、厳しい目で対象に迫ろうとした佳作、少しきすぎとした組み立ては、堅固さと別に伸びやかさを失わせているように思う。小野健寿「立塊りから、人間臭さがやつとぬけて、彫刻として勝負し始めた感がありうれしい。中谷紀子「Iさん」テラコッタの表情がうまく生きた作品、台にはもう工夫ほしい。

渡辺行夫「無題」賞の候補までなつた力作である。力がみなぎって感覚もよい。花田正雄「法輪I」今のモチーフをシャープに表現す

ると良い、仕上げ塗りは、材質感をこわさず。森戸春樹「胎」木の表現に新しさを発見したようです。深みにほしい。押上耕紗子「立ちポーズ」腕の表現に注意。樹下和子「女の首」少々部分にとらわれている。中田千年「風の詩」ムードに走らなければおもしろくなる。小山澄子「岸子」耳とあごの首があつまるあたりは、彫刻では大切です。

〈評〉伊藤 寿朗

〈工芸〉

武田文彦「北への贈り物」材質は木、どちらから見ても安定しているフォルムである。木の太さの変化が欲しい。ステンレス板の使い方が気になる。中秋勝広「作品I」鍍金奨励賞、質量感のある意欲的な形、金属のもつ強さが現われている。福井伸一「暗夜の流光」鍍金昨年から追求の作品と思われる一段とするとさまとまりが見られる来年を期待したい。東堂亮之「過去からの贈り物」鍍金、四角い安定した形から自然な風化が、モチーフのおもしろさが目立つ良い作品である。奥田茂人「霧炎」鍍金、はつと目を見えらせる。細部までに渡つての心づかいが感じられる。祐川秀永「褶壊」鍍金、鋭い方向性を持った形を組み合わせた、ステン鏡に写った虚と実のおもしろさがある。内田吉則「長城」鍍金、風化した権力の象徴をあらわしているのだろうか、にぶい光沢でうまく現わしている作品。

〈評〉田部隼夫

今井京子「落日(まり)」昨年の入選作と比べて格段の進歩がみられる構成である。伊藤啓子「FUSION・NOII」タピストリー



として、マンネリ化の傾向、素地の扱いと構成の工夫が必要であり安定した重量感が欲しい。笹島和子「春の扉(2)」そつなくまとめた作品もつと冒険をして欲しい。庄司光江「湖畔」作者特有の地色(藍)を生かしたモチーフの積極的なデザイン化を進めて欲しい。菅原栄子「南海の華」色や線の構成に整理をする工夫が欲しい。寺岡和子「ほかし紐飾布」作品のまじめに工夫を感じる、今後もっと個性を主張した作品を期待する。

森田喜己「湧A」無難な作品、今後もっと個性的な作品を期待する。宮原ミチキ「SPRING IRECU LAR」従来の出品作に比較して数段の主調性があり佳作である。渡辺邦枝「CROSS」ロープの扱い方に苦労の跡も見られるがもう一歩踏み込んだ工夫が欲しい。今後に期待する。山崎澄恵「静寂・しらねあひ」着物という制約を受けずに、手描染で作品にしたなら、もっとよくなると思う。関川菊代「雪映」着物の用途性の枠で佳作

である。

〈評〉鳴海 アツ

金子章「蒼空」形も施法特に関白紋がよい線文も決めた佳作に値する。羽生田洋子「白萩花器」は重苦しいのも軸調が暗い杉山民子「花器」は形もよく軸色は強く鳥文がよい。

蛇子徹子「つば」は形が単調で軸色が暗い三つの線文が面白。坂口桂一郎「冬の旅」置き物としては不満。軸調はまずまずの出来。高野陽子「麦原」大振りの壺で成型の苦労は判るが作りの苦心が裏目に出て残念、焼不足も難。堀田純一「舞花伝」は形がよいが焼の低いのが欠点。諫早治雄「焼しめ壺」形焼成文様共に欠点のない作品と思う。井田享二「花瓶」は化粧土を上手に活用したもので佳作といえよう。

石川真理「地底の眠り」は題名通り暗調のもの線掘りが面白い。吉田ナツ「作品B」は軸色はよい条紋は効果を高めている。佐藤孝子「線抜文六面壺」は成型線抜共に良い軸色に考慮したら一層よくなると思う。井上妙子「作品B」は佳作といえよう文様形共に良好。秋田清陶「崖壁孤文花器」成型の構図軸色がよい。松原成樹の「壺」は入選作ではA級の佳作で色変りの軸調形共に良好将来期待出来る。伊藤淳子「幾何紋花生」の紋がよい色調形態に留意すると一層よくなると思う。佐久間弘子「灰軸壺」は形軸色共に上出来。武田律子「作品」軸の色調が悪い。大室ヒサ「まち」軸の色を明るくしたら一層よくなると思う。

〈評〉山岡三秋

特別寄稿

アブラ／アブラ／溶剤に注意

会員 遠藤ミマン

北川君が入院していたころ、白血病はどうしてかかるのか、原因とか誘因とかを知りたいと思っていた。油に関係があるという情報があった。

たまたま、地元友人加藤巨君（道展会員）に会った。アド・ミヤモトを経営している。シンナーを使うし、絵かきだから油も使う。

「あなたの商賈は両方とも溶剤を使うが健康上何ともないの？」

「ぼくらは仕事をするときは、必ずマスクをするし、年に一度は血液検査をするよ。」

血液検査ときいてびっくり、溶剤ではからだがどういふふうによられるの？」

「中枢神経・内蔵器官・造血器官の三つですね。」

すると北川君は造血器官をやられたことになるなあ。

それにしても、加藤君がいった三つの障害はほんとうのことなのか。

「美術の窓」という新雑誌がある。

これに、油彩の常識というのをホルベイン工業株式会社技術部の植本誠一郎氏が連載はじめた。7回目はオイル・オイル物語溶き油(2)であった。

溶き油の(1)揮発性や(2)溶解力についての説明のあとに、(3)安全性・毒性と引火性という項があった。加藤君のいった三つの障害のことが出ていたではないか。

以下
「描画とは直接関係はないが重要な性質である。揮発性溶き油の様な溶剤の毒性とは、中枢神経・内蔵器官、造血器官に障害を与えるものである。」

例えばベトロールの様に石油蒸留生成物は、めまい、眠気、食欲不振、悪心、麻酔作用など、テレピン油は、眼の刺激、頭痛、めまい、悪心などの中毒症状がある。

また、いずれも脱脂作用による皮フの

荒れもある。溶剤の中毒は皮フ接触、呼吸器による吸入がその機会となるので、なるべく皮フに触れない、換気をよくする事に注意すべきである。

引火性（省略）

ちなみに、揮発性溶き油の蒸発率（条件：気圧、気温25℃、湿度60%）が図表に出ている。テレピン油はベトロールに比べると倍ほど早い。テレピン油は、6時間の段階で蒸発率99・7%。

酸化した油は上昇して部屋に充満することになる。

アトリエの天井が高いと、それだけ気化した油の被害は少なくなるが、何といつても換気をするのが大事だとわかった。

×
北川君の亡くなる七日前、最後の面会をした。大量出血とかでかなりがっくりしたあとだった。別れぎわ、彼は窓の方を向いて、

「ぼくはどうしてこんな病気になったのかなあ。」

というひとこと。

それがずっと心に引っかかっていた。保存会の手で遺品を整理したところ、

カンパスは十巻き、えのぐもストックして彼はまだまだ描くつもりであったのだが、不可思議なことに、リンシードやポピーの他に、シッカチーフの瓶が十九本もあつたことだった。

友人によれば、彼はこれを相当前から多量愛用していたという。画材店に確かめたところ、彼は大体いうときは半ダースずつ持っていたというからさうい。

さて、シッカチーフと言えば、黒っぽいもので、乾きのおそいえのぐにチョッピリませて使うという常識しかなかったものだから、彼の使う「シッカチーフ」の太瓶には驚いたし、レットルの能書きを読んだにまたまた驚いた。

シッカチーフ（アサヒクサカベ製）

「シッカチーフは油絵具の乾燥を促進させるものとして、高度に合理的に調査されるバニスです。」

このバニスは多く使用しても絵具の乾燥は均一に乾燥し、シワや亀裂の心配はありません。絵具に直接混ぜて使用した方が効果があります。

油彩の常識三回目には、「油絵具の乾燥」という項目で、シッカチーフを取りあげて

いる。

「ホルベイン社の製品
(a)シッカチーフブラン

鉛塩を主成分とするもので、乾燥促進力は弱いが内部から乾燥させる力がある。調査のとき油に混合する場合は30%以内、油絵具に直接混合する場合は10%以内におさえる。

(b)シッカチーフフルトレ
コバルト・マンガ・鉛の三種類の金属塩で組み合わせたものであり、表面乾燥と内部乾燥を同時に進行するものであり強力な乾燥力を示す。混合割合は、前者と同じ

(c)パートシッカチーフ
シッカチーフフルトレに樹脂や油を加えて絵具にしたものである。油絵具の調子をくずさずに乾燥を早めることができる。油絵具には10%以下の量を使う。

シッカチーフの量はいづれの場合も表示限度より少量に使うのがよい。

以上のような解説は大体シッカチーフは少量というものが常識なのである。

しるかに、北川君が愛用したシッカチーフは多量使用かまわないしなのである。

そこでいろいろ調べていると、

「油彩画の技術」ド・ラングレ著の二百十四頁に、フルトレ・シッカチーフの項があった。

フルトレ・シッカチーフ（加熱した油に鉛とマンガンの塩をそれぞれ同量ずつ混ぜたもの）は、一般にテレピン精油でのはず。とあった。つまりテレピンに

乾燥剤が入っているわけで、これを大量に使えば、テレピン使用と同じわけである。

それにしてもおかしいのは、ホルベインの「シッカチーフフルトレ」とクサカベの「シッカチーフ」は、うす目の茶かっ色も同じなら、使ってみての濃度もほとんど似ている。にもかかわらず、ホルベインの方では「直接絵具に混ぜる場合は10%以下、溶き油に加える場合は20%以下である」と、一方のクサカベは「多く使用をすすめている点である」。

北川君はこの能書きを信用して、テレピン代りにザブザブ使ったのも無理がないが、画材を売る方として何か問題が残るであろう。この点について、私は、

「美術の窓」の編集部に問合わせを行った。他社の製品は秘密に属することらしいが、使う方の身に当たらず、こうも違う能書きを出されるのは感ぜられる。いづれ回答があるだろう。

今回、協会賞をもらった高橋正敏君は、北川君にこのシッカチーフをテレピンがわりに使うことを教えてもらったそうだが、高橋君はその使い方をすると、眼に刺激がきて涙が出て困ります」と語っていた。

北川君の二の舞はしたくないので、今はこのシッカチーフを使うとき、あるいはベトロールやテレピンの溶剤を使うときは、マスクをするようにしたとのことである。

高純度活性炭入りの「グリアマスク」は、最近友人からそのマスクをいただいた。実験報告はあとに回すとして、私はたとえ揮発性の溶剤を使つたと大量の場合は、窓の外に出して乾燥させることにしているし、天井窓を常時開けておいたり、窓の戸をこまめに開けて換気をするにしている。

命根性がきたなくなつたのかな。

第25回学生美術全道展 9月1日(木)～9月6日(火)(搬入8月28日(日)) 於:札幌(井)今井

道都さっぽろの中心に
美と芸術のひろば

アートギャラリー さいとう

札幌市中央区南1条西2丁目 隣
丸一ビル2F T 011(222)3698

オーク画材

札幌時計台
ギャラリー

〒060札幌市中央区北1条西3丁目
札幌時計台文化会館 ☎261-8971

洋画・日本画材料

大丸藤井
セントラル

札幌・南1西3

仲間のたより

- 七月下旬、(中)デパートでフランス近代絵画展を見たが、エコール・ド・パリの画家キスリングの今回の作品は抜群であった。中でも「ソファに寝そべる褐色の裸婦」、官能的で優雅で、ダイナミックな魅力にとりつかれ、しばし足がくづけとなり、私の心は嬉々として踊った。
札幌 嵐鈴子
- 道北の旅をして来ました。(吉)前、士別、美深、雄武、紋別、網走、北海道は広い、古い建物がない。番屋―古い家があったら知らせてください。
札幌 尾崎志郎
- 最低、週一度は近くの野幌原始林を散策します。6月7日は学校の遠足や各グループの探鳥会等に行きかかっていますが、8月に入ると静かになります。山の中で思うこと、時代は変わっても、自然は変わらないという。少年時代とまったく同じ山の中です。 江別 手島圭三郎
- 先日、私用で東京へ行き、帰りになにげなくフランス・ペーコン展(国立近代美術館)をみました。2年前にもパリのボンビードー美術館で作品をかみましたが、今回展示されている作品はほとんど私にとってはじめてのものであり、その大胆な構図と色彩に胸をドキドキさせられました。2年前のニコラ・ド・スター展以来の感動でした。会場を出てから画友田崎謙一さん(神奈川、全道展、独立展会友)と会い、元氣な笑顔でいかにわらず制作に励んでいる様子でした。
石狩 川本ヤスヒロ
- ZEN編集委員の皆様のご尽力に敬意を表します。昭和21年、全道展出発の時の仲間の中から、次々と世界へ、今また松島君がひきこもり中で、気の毒なことです。来年の秋、道立近代美術館で回顧展をやったことに決まりましたので、それまで元氣でいなくてはと思っています。
東京 田中忠雄
- 去る7月15日、東京渋谷「いろは」に「はへ」といって全道展東京支部の集いを開催しました。出席者は、大谷会員、岸



58. 7. 2 受賞者表彰式/共済サロン

会員、小川会員、小野会員、渡辺会員、安多会員と菅野でした。久方振りに皆さんにお会いしてとても楽しい集いでした。いづれ札幌で東京支部展を開催することの話題と、大谷会員の全道展審査の模様などの報告で雰囲気が一層盛り上がりしました。

● 今春一月、突然急病にて入院。右半身不随となり長期加療、現在リハビリ訓練中。生ある限り何とか再起をしようと努力しています。(左手で制作してみます)七月末現在歩行練習です。函館 東 政雄

● 日頃、委員会各位のご尽力に感謝いたしております。ZENを読める日を楽しみにしています。札幌 佐藤哲夫

● 石狩町に移り住んで10年を越えました。人口も4万人近くに年々美術家の数も増えたようです。全道展にも絵画部門にすぐれた作家がおり、将来に期待したいしております。私も私なりに努力したいと念じております。石狩 大森亮三

● 鳴かず飛ばずです。只今のところ何の予定もありません。東京 小川マリ

● 現在Parisへ行っておりますので、8月5日までは間に合いませんので、次回よりは直接お便りして頂ければ幸いです。
Paris France 札幌 吉田康子留守番人 43, rue de la Harpe 75005

● 吉田康子会友よりパリ便りあり、新会友の朗報に喜んでいる様子、皆さまによろしくとのこと。

● 私はこの夏は、アトリエ前に東屋を建設中、休みの殆どを絵を描かず製作に没頭。今は、予算切れで一時的に中断(残り土曜)。今年は8月末になりそう。

● 先月、小樽ポート・フェスティバルの出店で骨董を見つけ、次の作のモチーフになりそうなので、サイフの中味まで値切った。来年の作品には登場するかも。

● 夏は暑い方がよいです。ザリザリと照りつける太陽のもとで、流れる汗をふきふきの制作でないと調子が出ません。相変わらずカンパスとのにらみ合いです。
札幌 渡部重夫

● 黒川小学校の陶板外壁画(七・一七 M×一八・六三M)制作を担当し、原画から数度、滋賀県信楽町に出向いたり、ほぼ一年がかりで完成をみた。われながら出来上がり、巨大に驚き、子どもたちの喜びを見、制作にあられた幸せをかみしめている。余市方面にいられたときは是非一望いただき、批評賜わればと思います。
古平 庵井田日出鷹

● 冷夏といいますが、制作には程よい気温でいつもの年より順調に推移している自分では思っています。家の周りの原始林的雑草に若干厭気がさして、少しづつバツサイフを流し、さわやかなグリーンでゴルフボールを打って神経を集中して、いいいい夏!

● 歌志内 山のアトリエ 森谷 一

● 個展も終わった感、テレビで見た未だ色付けしていない和紙張りのねぶたが不思議な感覚として忘れられないまま青森行きとなりました。あきらめていた色付けしてないねぶたも少しありましたが、ほとんどが出来上って見事に勢揃いしてありました。(ねぶた団地)8月2日泊泊は早くから入り込む見物人におおわれ、いよいよ祭りは開かれました。団体名の高張提灯の後に道いって子供たちが掛け声も賑やかに続き、裾をはしよった浴衣になつき、しごきを流し花笠をかぶったハネト(跳ね踊る人)、笛ふ

く人、各町内ねぶたが次々と続き更に太鼓の音がひびき、一段とおはやし、乱舞するハネト、群衆と熱気は益々、青森の夜空に拡がりながら大きなねぶたは生きもののようにねわって行くのです。これこそ祭りなのだといった興奮もさめないまま、あの時の白いねぶたの中に秘められた情感を思いいつつ帰路につきましました。私の作画へのつながりは?

● 一九七三年渡仏、札幌 小関恵久子

● 一七八二年健康を害し、急ぎ帰国、幸い良くなって制作を続け、この春、国画会へ、又全道展と出品。現在元氣で制作を続けております。函館へお立寄りの方はおこし下さい。個展、来年は開くつもりです。函館 橋本三郎

● 編集苦勞様です。いつも意見もなく、個展の計画もなく、住所も変わらないうので失礼ばかりしています。何とか図録についての意見でも思いつて今までの図録を読み返してみました。どれれもよくできていて、改善要望など全くありません。古い年度のものを返すとき、意見どころか懐かしさに埋没してしまいます。図録やZENは、現在の交流の意味もありますが、年老いた所為でしょうか。
登別 諏訪英雄

● 肌寒さを感じる露雨、夏というのに太平洋岸は毎日海霧がかります。20度を超える室温、絵の具の乾きが殊の他おそいようです。今春登別に市民センターが落成ですが、展覧会の設備は実現しませんでした。一昨年末で可能だった移動展の場はこれとわかれ、宙に浮くのは「文化」淋しいことです。元々、室蘭の範囲に含まれる作家集団が「住んでいい」ことは理由に分派活動を余儀なくされた経過を持つだけに、改めてこれから見据る時期に来たようです。
登別 佐久間恭子

● 暑さも和らいで来ておりますが、皆さまも元氣で過ぎるの事存じます。今回展の第38回に際しましては、25回目の出品(入選)に会友推挙、ほんとうに永い様で短かった様に感じしておりますが、

企画展「第38回全道展受賞者招待展」10月17日(月)～10月22日(土)於:大同ギャラリー札幌

ざんしんデザイン
良心的な作品

株式会社 松山 額縁店

札幌市狸小路5丁目 TEL(0)251-9000

緑の空中庭園に囲まれた
ギャラリー

大同ギャラリー

札幌市中央区北3条西3丁目
札幌大同生命ビル TEL 241-8271 内88

印刷の美を、私達は考えます



中西印刷株式会社
札幌市東区東苗穂町505番地 ☎011(781)7501

個展グループ展案内

- 三箇三郎個展
8/5~9/6 五稜郭ニューギャラリー・函館
- 穂井田日出磨・馬場伶二人展
8/18~8/21 余市町中央公民館
- 日本国際美術家協会北海道展、木村良ほか
8/18~8/26 函館市市民会館
- 一原有徳個展
9/1~9/30 伊奈ギャラリー・東京(中原佑介企画)
- 大木靖木版画展
9/5~9/11 画廊丹青・釧路
10/13~10/18 伊井井・小樽
12/3~12/8 りゅ画廊・東京池袋
- 嵐玲子個展
9/19~9/24 時計台ギャラリー・札幌
- 藤井正個展
9/29~10/5 ギャラリーさいとう・札幌
- 八木伸子小品展
9/17~9/30 ギャラリー、ポアール(道特会館6F)・札幌
- 八木次次個展
10/3~10/8 ギャラリー、オカベ・東京銀座
- 秋季国展彫刻部会員展、秋山沙走武ほか
10/17~10/22 洋協ホール・東京
- 第2回彫刻家集団「北斗会」試作展、秋山沙走武ほか
1/12~1/17 五稜郭ギャラリー・函館
- 秋山沙走武個展
期日未定 東京日本橋三越本店
- 野本醇個展
10/10~10/15 時計台ギャラリーA・B室・札幌
- 木村良個展
10/27~11/1 五稜郭ギャラリー・函館
- 森谷一小品展
11/1~12/30 コーヒーほし・砂川
- 宮西詔路個展
11/上旬 伊井井・函館
- 押川清個展
11/未定 ささき画廊・釧路
2/未定 東急画廊・札幌
- 岸本裕躬個展
11/14~11/19 時計台ギャラリーA・B室・札幌
- 森谷一油絵個展
11/21~11/26 時計台ギャラリー・札幌
- 森ヒロコ個展
11~オーストラリア・パディントン、その後、キャンベラ、メルボルンで開催予定
- 穂井田日出磨個展
12/12~12/17 時計台ギャラリー・札幌
- 栃内忠男選歴による自選展、15歳からの作品約60点陳列予定
12/5~12/10 時計台ギャラリー全館・札幌
- 山岡三秋ほか陶芸グループ展
1/未定 札幌伊井井

●会務・苦勞までです。暑気に向かうお、ご健康に留意されますようお願いいたします。札幌 藤島清士

●小生の小樽個展と全道展との会期が重なりまして、札幌に行けませんでした。

東京 大谷久子

●第38回全道展の作品(彫刻)は運送トラックの都合により、一部巡回しないことになったそうですが、それはどんな理由によるものか、また、それは今回に限ったものなのか、東京在住作家に限ったものなのか、詳細について知りたいのですが……

(答) 会員数が年々多くなり一台のトラックでは積荷でない状態になりました。会報でもお知らせしてありますが、絵画

全道展・図録・ZEN等への意見要望・質問など

●私は所謂、初老の頃まで、本来の業務の外、多少の公職を兼ねたりして作画的には手暇を惜しんだ。当時、私の会社の役員でゴルフをやらないのは、私のひとりだった。光栄ある孤立などと言わすに居たが、実は人がゴルフをしている時、自分は作画に専念する為であつた。それでいて作品の数は於ては、暇はいくらでもある現在より多かつたように思う。(大病後の体調にもよるが、教訓、多忙は怠惰の云い訳にならぬ。室蘭 高野次郎

●水落路さん(83期待の新人作家賞賞展新宿伊勢丹美術館)で大賞をとりました。永井もよきさんは入選。一〇〇〇点あまりの応募の中からの厳選で、全道展のうれしいニュースです。小樽 一原有徳

●入選者住所録の工芸の部を「陶芸」「金工」「木工」「染色」に分類して記載された。

●ZEN No.10の前号では「全道展、ZEN等への意見、要望、質問など」と仲間のため、合わせて42名の発言が出されていますが、毎号、活字が少なくて非常に読みにくい。それと比較して「作家探訪6」は、ゆつたりした活字に、42名からの意見と同じペースを、1人の作家の為に費している事に不合理性を感じます。図録に「仕事場をたずねて」があり、更にたつた「仕事場」に紹介する必要があるだろうが、内容が純粋な作家論、作品論であるなら又別ですが、アトリエ訪問と似たりよつたりの探訪記でない。こうしたものをばくか、どうしても出さずなら顔写真くらいにとどめ

は三〇号までしか巡回しないこと、彫刻、工芸については諸状況を判断して事務局に一任されておきます。こ、二、三、三、五名程度の方に休んでいただいたり、代替作品にして(これも問題がありますが)「いたいたたりしてあります。今年の彫刻は特に大作が多く、八人の方に休んでいただきたりありますが、決して特定の作家や、地域ではありませんでした。ご了承下さい。尚、この問題につきましては、最良の方法をひき続き検討したいと考えております。

(事務局)

●お知らせ・おねがい

七月一日の在札会員拡大事務委員

●手代木淳 〇二九二(五)七一九〇

●池田正之助 〇二九二(五)七一九〇

●図録一三八頁、長野實は裏と訂正

●図録一五〇頁、21回展会友推薦欄に長野實が脱字

●渡部重夫、図録一四〇頁、〇一(八三)三六三三

●図録一五五頁、第36回展会友推薦、工藤善三を工藤善蔵に

●図録一四七頁、第10回展会員推薦、栃内忠雄を栃内忠男に

住所 電話番号・呼称変更と転居

●池田正之助 〇二九二(五)七一九〇

●図録一三八頁、長野實は裏と訂正

●図録一五〇頁、21回展会友推薦欄に長野實が脱字

●渡部重夫、図録一四〇頁、〇一(八三)三六三三

●図録一五五頁、第36回展会友推薦、工藤善三を工藤善蔵に

●図録一四七頁、第10回展会員推薦、栃内忠雄を栃内忠男に

●手代木淳 〇二九二(五)七一九〇

●池田正之助 〇二九二(五)七一九〇

●図録一三八頁、長野實は裏と訂正

●図録一五〇頁、21回展会友推薦欄に長野實が脱字

●渡部重夫、図録一四〇頁、〇一(八三)三六三三

●図録一五五頁、第36回展会友推薦、工藤善三を工藤善蔵に

●図録一四七頁、第10回展会員推薦、栃内忠雄を栃内忠男に

●手代木淳 〇二九二(五)七一九〇

●池田正之助 〇二九二(五)七一九〇

●図録一三八頁、長野實は裏と訂正

●図録一五〇頁、21回展会友推薦欄に長野實が脱字

●渡部重夫、図録一四〇頁、〇一(八三)三六三三

●図録一五五頁、第36回展会友推薦、工藤善三を工藤善蔵に

●図録一四七頁、第10回展会員推薦、栃内忠雄を栃内忠男に

●手代木淳 〇二九二(五)七一九〇

●池田正之助 〇二九二(五)七一九〇

●図録一三八頁、長野實は裏と訂正

●図録一五〇頁、21回展会友推薦欄に長野實が脱字

●渡部重夫、図録一四〇頁、〇一(八三)三六三三

●図録一五五頁、第36回展会友推薦、工藤善三を工藤善蔵に

●図録一四七頁、第10回展会員推薦、栃内忠雄を栃内忠男に

●手代木淳 〇二九二(五)七一九〇

●池田正之助 〇二九二(五)七一九〇

●図録一三八頁、長野實は裏と訂正

●図録一五〇頁、21回展会友推薦欄に長野實が脱字

●渡部重夫、図録一四〇頁、〇一(八三)三六三三

●図録一五五頁、第36回展会友推薦、工藤善三を工藤善蔵に

●図録一四七頁、第10回展会員推薦、栃内忠雄を栃内忠男に

●手代木淳 〇二九二(五)七一九〇

●池田正之助 〇二九二(五)七一九〇

●図録一三八頁、長野實は裏と訂正

●図録一五〇頁、21回展会友推薦欄に長野實が脱字

●渡部重夫、図録一四〇頁、〇一(八三)三六三三

●図録一五五頁、第36回展会友推薦、工藤善三を工藤善蔵に

●図録一四七頁、第10回展会員推薦、栃内忠雄を栃内忠男に

●手代木淳 〇二九二(五)七一九〇

●池田正之助 〇二九二(五)七一九〇

●図録一三八頁、長野實は裏と訂正

●図録一五〇頁、21回展会友推薦欄に長野實が脱字

●渡部重夫、図録一四〇頁、〇一(八三)三六三三

●図録一五五頁、第36回展会友推薦、工藤善三を工藤善蔵に

●図録一四七頁、第10回展会員推薦、栃内忠雄を栃内忠男に

●手代木淳 〇二九二(五)七一九〇

●池田正之助 〇二九二(五)七一九〇

●図録一三八頁、長野實は裏と訂正

●図録一五〇頁、21回展会友推薦欄に長野實が脱字

●渡部重夫、図録一四〇頁、〇一(八三)三六三三

●図録一五五頁、第36回展会友推薦、工藤善三を工藤善蔵に

●図録一四七頁、第10回展会員推薦、栃内忠雄を栃内忠男に

●手代木淳 〇二九二(五)七一九〇

●池田正之助 〇二九二(五)七一九〇

●図録一三八頁、長野實は裏と訂正

●図録一五〇頁、21回展会友推薦欄に長野實が脱字

●渡部重夫、図録一四〇頁、〇一(八三)三六三三

●図録一五五頁、第36回展会友推薦、工藤善三を工藤善蔵に

●図録一四七頁、第10回展会員推薦、栃内忠雄を栃内忠男に

●手代木淳 〇二九二(五)七一九〇

●池田正之助 〇二九二(五)七一九〇

●図録一三八頁、長野實は裏と訂正

●図録一五〇頁、21回展会友推薦欄に長野實が脱字

●渡部重夫、図録一四〇頁、〇一(八三)三六三三

●図録一五五頁、第36回展会友推薦、工藤善三を工藤善蔵に

●図録一四七頁、第10回展会員推薦、栃内忠雄を栃内忠男に

●手代木淳 〇二九二(五)七一九〇

●池田正之助 〇二九二(五)七一九〇

●図録一三八頁、長野實は裏と訂正

●図録一五〇頁、21回展会友推薦欄に長野實が脱字

●渡部重夫、図録一四〇頁、〇一(八三)三六三三

●図録一五五頁、第36回展会友推薦、工藤善三を工藤善蔵に

●図録一四七頁、第10回展会員推薦、栃内忠雄を栃内忠男に

●手代木淳 〇二九二(五)七一九〇

●池田正之助 〇二九二(五)七一九〇

●図録一三八頁、長野實は裏と訂正

●図録一五〇頁、21回展会友推薦欄に長野實が脱字

●渡部重夫、図録一四〇頁、〇一(八三)三六三三

●図録一五五頁、第36回展会友推薦、工藤善三を工藤善蔵に

●図録一四七頁、第10回展会員推薦、栃内忠雄を栃内忠男に

●手代木淳 〇二九二(五)七一九〇

●池田正之助 〇二九二(五)七一九〇

●図録一三八頁、長野實は裏と訂正

●図録一五〇頁、21回展会友推薦欄に長野實が脱字

●渡部重夫、図録一四〇頁、〇一(八三)三六三三

●図録一五五頁、第36回展会友推薦、工藤善三を工藤善蔵に

●図録一四七頁、第10回展会員推薦、栃内忠雄を栃内忠男に

●手代木淳 〇二九二(五)七一九〇

●池田正之助 〇二九二(五)七一九〇

●図録一三八頁、長野實は裏と訂正

●図録一五〇頁、21回展会友推薦欄に長野實が脱字

●渡部重夫、図録一四〇頁、〇一(八三)三六三三

●図録一五五頁、第36回展会友推薦、工藤善三を工藤善蔵に

●図録一四七頁、第10回展会員推薦、栃内忠雄を栃内忠男に

●手代木淳 〇二九二(五)七一九〇

●池田正之助 〇二九二(五)七一九〇

●図録一三八頁、長野實は裏と訂正

●図録一五〇頁、21回展会友推薦欄に長野實が脱字

●渡部重夫、図録一四〇頁、〇一(八三)三六三三

●図録一五五頁、第36回展会友推薦、工藤善三を工藤善蔵に

●図録一四七頁、第10回展会員推薦、栃内忠雄を栃内忠男に

●手代木淳 〇二九二(五)七一九〇

●池田正之助 〇二九二(五)七一九〇

●図録一三八頁、長野實は裏と訂正

●図録一五〇頁、21回展会友推薦欄に長野實が脱字

●渡部重夫、図録一四〇頁、〇一(八三)三六三三

●図録一五五頁、第36回展会友推薦、工藤善三を工藤善蔵に

●図録一四七頁、第10回展会員推薦、栃内忠雄を栃内忠男に

●手代木淳 〇二九二(五)七一九〇

●池田正之助 〇二九二(五)七一九〇

●図録一三八頁、長野實は裏と訂正

●図録一五〇頁、21回展会友推薦欄に長野實が脱字

●渡部重夫、図録一四〇頁、〇一(八三)三六三三

●図録一五五頁、第36回展会友推薦、工藤善三を工藤善蔵に

●図録一四七頁、第10回展会員推薦、栃内忠雄を栃内忠男に

●手代木淳 〇二九二(五)七一九〇

●池田正之助 〇二九二(五)七一九〇

●図録一三八頁、長野實は裏と訂正

●図録一五〇頁、21回展会友推薦欄に長野實が脱字

●渡部重夫、図録一四〇頁、〇一(八三)三六三三

●図録一五五頁、第36回展会友推薦、工藤善三を工藤善蔵に

●図録一四七頁、第10回展会員推薦、栃内忠雄を栃内忠男に

●手代木淳 〇二九二(五)七一九〇

●池田正之助 〇二九二(五)七一九〇

●図録一三八頁、長野實は裏と訂正

●図録一五〇頁、21回展会友推薦欄に長野實が脱字

●渡部重夫、図録一四〇頁、〇一(八三)三六三三

●図録一五五頁、第36回展会友推薦、工藤善三を工藤善蔵に

●図録一四七頁、第10回展会員推薦、栃内忠雄を栃内忠男に

●手代木淳 〇二九二(五)七一九〇

●池田正之助 〇二九二(五)七一九〇

●図録一三八頁、長野實は裏と訂正

●図録一五〇頁、21回展会友推薦欄に長野實が脱字

●渡部重夫、図録一四〇頁、〇一(八三)三六三三

●図録一五五頁、第36回展会友推薦、工藤善三を工藤善蔵に

●図録一四七頁、第10回展会員推薦、栃内忠雄を栃内忠男に

●手代木淳 〇二九二(五)七一九〇

●池田正之助 〇二九二(五)七一九〇

●図録一三八頁、長野實は裏と訂正

●図録一五〇頁、21回展会友推薦欄に長野實が脱字

●渡部重夫、図録一四〇頁、〇一(八三)三六三三

●図録一五五頁、第36回展会友推薦、工藤善三を工藤善蔵に

●図録一四七頁、第10回展会員推薦、栃内忠雄を栃内忠男に

●手代木淳 〇二九二(五)七一九〇

●池田正之助 〇二九二(五)七一九〇

●図録一三八頁、長野實は裏と訂正

●図録一五〇頁、21回展会友推薦欄に長野實が脱字

●渡部重夫、図録一四〇頁、〇一(八三)三六三三

●図録一五五頁、第36回展会友推薦、工藤善三を工藤善蔵に

●図録一四七頁、第10回展会員推薦、栃内忠雄を栃内忠男に

個展・グループ展の貸額稼と額稼製造販売・公募展の搬入・搬出の代行作品運送に是非御利用下さい(多少にかかわらず御連絡下さい)

美術展覧会貸縁・美術品扱専門店
北陽美術

〒061-24 札幌市西区手稲前田657-110
☎ 011 (682) 6340

全道展に関するお問い合わせは次の所へ。

●全道展事務局/〒063札幌市西区山の手3条11丁目 ☎ 〇一(六三)一六二〇 後藤康也

●北海道新聞社事業局文化部全道展担当/〒060札幌市中央区大通西三丁目 ☎ 〇一(二二二)二一〇一

●会員・会友で会費未納の方は早急に納入して下さい。郵便振替口座、小樽八六一七、池田正之助方全道美術協会宛。

会次年度の全道展事務局が次のように決定しました。事務局長、後藤康也、次長(会計)池田正之助、会務委員に斎藤洪人、渋谷栄一、寺崎源治、前野昌市、大地康雄、田部幸夫、山本一也、青木淳子、山口聰市、久守昭嘉

●前売券、広く協力いただきありがとうございます。未清算の方/至急代金を池田会計までお届け下さい。

●来年度、第39回全道展の会期は59年6月27日(水)~7月8日(日) 搬入は6月13日(水)~14日(木)と決まりました。

●第38回全道展の図録残部があります。ご希望の方は、全道展事務局まで申し込み下さい。送料三〇〇円、図録価格一三〇〇円。